ある高さ

山々の谷あいから
しきりに雲が湧き
ある高さをめざす
みずからにふさわしいと思う高さまでくると
そこにとどまる
なぜか、それ以上の高さにはならない
同じような雲が
同じような高さにとどまり
見渡す限りの、深々とした雲海になる

私が雲海をいらだたずに眺めたのは

若い時ではない
少し年をとってからだ